

南庭

宸殿の南側の庭園は、荘厳な雰囲気醸し出すとの意図により、故意に質素に造られています。完璧に掻き整えられた白砂利の石庭の背景には、杉や松が植えられています。これらの石は京都の白河地区で採れたものを使用していますが、替えとなる石がもはや手に入らないため、庭園の意図された外観を維持するためには定期的に洗う必要があります。宸殿の真前にある木は、桜（左）と橘（右）です。この組み合わせは縁起が良いとされ、10世紀に京都御所の正殿前に桜と橘の木が初めて植えられて以来、朝廷とゆかりがあるものとなっています。宸殿の周囲には縁側があり、南庭と、それよりも趣向が凝らされた北庭の両方を眺めることができます。